

BOOK TRAIN

ブックトレイン



学校支援担当司書が、みなさんにおすすめの本を選びました。
紹介している本は、千代田区立図書館所蔵の本です。



『給食アンサンブル』

きさらぎ 如月 かずさ/作 光村図書出版

なや 悩みのない人なんていない。そんなかれらの背中を押すのは給食

他人から見ればなんでもないことが、乗り越えられない壁のように感じる時がある。素直になれなかったり、周りの変化に戸惑ったり、恋をしたり、自分らしさがわからなくなったり、孤独だったり、友だちとの繋がりに不安を感じたり…。心が揺れる理由はそれぞれだ。けれど、彼らの背中を押す給食は今日もおいしい。6人の中学生が織り成す6つのストーリー。



『カガク力を強くする!』

元村 有希子/著 岩波書店

「ぼんやりしていたら、えらいことになるぞ」

最近の自然災害を見るにつけ、私たちの快適な生活は、科学の知識を基に生まれた技術の上に成り立っているのだと思い知らされる。しかしその科学の進歩が、私たちの生活を脅かす!? カガク力とは、「疑う力」であり「論理的に考える力」であり、おかしいと思ったら「ツッコむ力」だと科学記者の筆者は言う。科学が苦手という人は、まず目次を見て、気になる章を拾い読みしてみよう。



『共に生きるということ be humane』

おがた さだこ 緒方 貞子/著 PHP 研究所

「150cmの巨人」と讃えられた女性の人生哲学

約30年前、それまでヨーロッパの男性政治家ばかりが務めていた国連難民高等弁務官が辞任した。日本政府が後任として選んだのは緒方貞子さん。初の東洋人、初の女性、初の学者出身という異例づくしで就任した緒方さんは、早々に“戦争”という壁にぶつかる。難民救済のために難しい決断を下す判断の基準はどこにあったのか? 2011年放送のテレビ番組内のインタビューをまとめた一冊。



『月の光を飲んだ少女』

ケリー・バーンヒル/著 佐藤 見果夢/訳 評論社

月の光の魔法よ、悲しみの連鎖を断ち切って！

森で魔法のザンに拾われた赤ん坊ルナ。ザンがうっかり月の光を飲ませたことで、ルナは強力な魔法の力を得てしまった。ルナはドラゴンたちに見守られながら心優しい少女へと成長するが、魔女を殺しに来た男によって、自分がなぜ森に捨てられたのかを知るようになる。長い間隠されてきた残酷で悲しい秘密を明らかにしたルナが、愛と人生を取り戻す魔法物語。

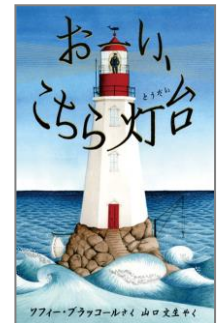


『おーい、こちら灯台』

ソフィー・ブラッコール/さく 山口 文生/やく 評論社

灯台守という仕事を知っていますか？

遠くの海まで光を送り、船を安全に導く灯台。世界の最果ての小さな島にたつ灯台に、灯台守として暮らす男がいた。灯台守はレンズを磨き、油をつぎ足し、あかりの手入れをする。穏やかな日常と命がけの冒険をくり返し、その全てを日誌に書き残す。そんな灯台守の日々が色彩豊かな絵で丁寧に描かれている、まるで8ミリ映画を見ているような気分になる絵本。



『イマジナリーフレンドと』

ミシェル・クエヴァス/作 杉田 七重/訳 小学館

ぼくはだれかの想像じゃなくて、本物になりたいんだ

ジャック・パピエはみんなから嫌われていると思って生きていた。家族以外の誰もが彼のことを無視するからだ。ところが、ある女の子から衝撃的な事実を告げられて彼の人生は一転する。自分の運命を変えるため、相棒である妹と別々の道を歩むことにした彼を待っていたのは、想像もつかない数多の出会いだった。笑いあり、涙ありの心温まるファンタジー小説。



『かくれ家のアンネ・フランク』 ヤニー・ファン・デル・モーレン/作 西村 由美/訳 岩波書店

アンネ・フランク生誕90年。初めて彼女の生涯に出会う人へ

普通の家に生まれ、普通の女の子として生活していたアンネ。ところが、ある時から映画が禁止され、図書館が禁止され…とうとう強制労働を課せられることになる。彼女がユダヤ人というだけで。第二次世界大戦中ナチスから逃げるためにかくれ家に暮らすこととなった彼女は、どのようにして希望を持ち続けたのか。世界中で有名な『アンネの日記』の導入として最適な伝記物語。

